

# 古墳詳細分布調査 試掘・測量調査の報告

県立さきたま資料館・学芸部

埼玉県教育委員会では、文化庁の国庫補助金の交付を受けて埼玉県内所在古墳詳細分布調査を平成元年度から実施しており、県内に所在する古墳の現況を把握するための概況調査による古墳カード作成と、概況調査を実施した古墳の中から、その実態は不明であるが重要と思われる古墳を地域毎に選定し、試掘・測量調査を実施している。調査は平成元年度から5年までで、元年度は、入間・比企郡市、2年度は秩父・児玉郡市、3年度は北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市を対象に実施した。平成4年度は、北足立・大里郡市、5年度は、全県補足調査と報告書の作成を予定している。ここでは、平成元年度から3年度までに行った、試掘・測量調査の概要を報告する。なお、この報告は、平成3年3月と平成4年3月に「古墳詳細分布調査概報1, 2」として掲載したものをまとめたものである事をお断りする。

## 1 平成元年度試掘・測量調査について

平成元年度の調査は、各地域の代表的な前方後円墳の雷電塚古墳、大類2号墳、天神山古墳、墳形から古式と思われる根岸稻荷神社古墳、山の根古墳、その重要性が判明しつつある天神山横穴墓群を対象とした。試掘・測量調査は、平板測量を行って、墳形を確認すると共に、遺構・遺物の検出のために数本のトレンチを設定して進めた。

### (1) 雷電塚古墳

所在地 坂戸市大字小沼269

立地 雷電塚古墳は、東武東上線坂戸駅の東方約2.7kmの、標高18mの坂戸台地の末端に位置する。台地の縁からはやや奥まっているが、北側には越辺川の沖積地を望む。前方部から約10m程のところにも痕跡程度の古墳があるほか、周囲には4基の古墳があり、雷電塚古墳群と呼ばれている。

現況 この地域の代表的な前方後円墳として、昭和31年に県指定史跡となった。墳丘の規模は全長47m、前方幅23m、後円部の直径25.5m、高さは前方部3.25m、後円部4.5mである。後円部には小祠があるが、東側は山林で、保存状態は良い。墳丘西側の裾は、畑地との境となる深い根切り溝で削られていた。

調査の概要 調査は墳丘東側くびれ部に第1トレンチ、前方部に第2トレンチを設定して進めた。第1トレンチは幅2m、長さ11.5mで、幅9.8mの周堀が検出された。墳丘裾は垂直に近い立ち上がりであったが、周堀外側の傾斜はやや緩かった。第2トレンチで検出された周堀は、幅が狭く、5.5mであった。深さも浅く、墳丘側で1.2mであった外側の立ち上がりの傾斜は、くびれ部に比べてもさらに緩かった。この結果、周堀の形態は盾形とならず、墳丘に沿うように同じ幅でめぐっている可能性が高い。発見された遺物は、多量の円筒埴輪のほか、朝顔形埴輪片、形象埴輪片、須恵器片がある。出土量はくびれ部が圧倒的に多かった。築造年代は墳形や出土した埴輪から6世紀中頃と推定される。

(谷井)

## (2) 大類2号墳

所在地 入間郡毛呂山町大字川角字塚原2219

立地 越辺川の右岸の坂戸台地にある。台地の西側には5m下がった段丘が広がる。台地は広い平坦地が続き、毛呂山町には2基の前方後円墳を中心とした39基の大類古墳群、隣接した坂戸市域には3基の前方後円墳を含む13基からなる塚原古墳群がある。

現況 古墳の周囲は全て畑地で、墳丘の周りは開墾され、前方部と後円部の中心を残すのみで、本来の形が想像できないほど変形していた。現況の墳丘の長さは26m、幅8.5m、後円部の高さ2.2mである。墳丘には多量の川原石が積まれていることから、葺石で覆われていた可能性が高い。

調査の概要 東西に長い墳丘に対して、墳丘東端で南方方向に第1トレンチ、南側くびれ部に第2トレンチ、北側に第3トレンチを設けた。幅2m、長さ11mの第1トレンチでは幅2.6mの周堀が検出された。トレンチの端では隣接する円墳の周堀と思われる溝も見つかっている。第2トレンチでは基盤がローム層ではなく、暗褐色土のため、周堀ははっきりしなかったが、土層断面から3m程が予想された。第3トレンチでは掘り込みが最も深く、調査範囲内では周堀外側の立ち上がりが検出できなかったことから、幅は7.5m以上である。発見された遺物は第1トレンチで土師器杯が出土したほか、第3トレンチを中心に埴輪が多量に出土しているほか、須恵器大甕片等もみられた。古墳の築造年代は土師器杯の特徴から6世紀前半から中ばと考えられる。(谷井)

## (3) 天神山古墳

所在地 東松山市柏崎134-12

立地 天神山古墳は松山台地が東方に向かって長く張り出す舌状台地上に占地し、北側には東流する市の川と沖積地が迫っている。古墳周辺の標高は26mである。周囲には全長62mの前方後円墳である、おくま山古墳のほか、15基の円墳が現存しており、柏崎古墳群と呼ばれているが、消滅した古墳も多い。

現況 墳丘の東半が削平され、住宅が建てられている。主軸はほぼ南北方向で、全長約57mを測り、北側が高く、南側は低平で、くびれる部分があるため、前方後円墳とみられている。現状での墳丘の高さは、約4mであるが、近所の人の話では、かつては倍くらいの高さがあったという。

調査の概要 調査は西側の平坦地に設けた4本のトレンチのうち、第3トレンチと第4トレンチで周堀の一部が検出され、外側の立ち上がりラインが内側に直角に近い状態で屈曲することが明らかとなった。このため、天神山古墳の周堀は墳丘と相似形に掘られているとみられ、ほぼ同規模の前方後円墳であるおくま山古墳の馬蹄形周堀とは相違することから、前方後方墳であった可能性がありうる。

今回の調査では、墳裾ライン検出することができなかったため、墳形と規模を確定するには至らなかった。今後の範囲確認調査の継続が望まれる。発見された遺物は少量であり、縄文土器片、五領式の土師器壺口縁部片、鬼高式のいわゆる比企型土師器坏片があるが、埴輪片は検出されなかった。古墳の築造時期については、昭和の初期、村人たちの手によって土採りされた際に石室状の遺構が認められ、仿製内行花文鏡と玉類などが出土しており、今回、埴輪の検出がなく、五領式土器(墳丘上からも広く表採できる)の大形破片が出土したことから、4世紀まで遡る可能性がある。(若松)

#### (4) 根岸稲荷神社古墳

所在地 東松山市大字古凍字根岸1156ほか

立地 根岸稲荷神社古墳は、東松山市南東部の新江川を望む台地上にあり、墳丘裾部の標高は19.4～19.6mである。対岸には円墳と帆立貝式古墳を含む計22基（昭和37年調査）からなる古凍古墳群が分布している。

現況 古墳の高さは1.6mで、平面形は南北15m、東西15mの正方形である。墳頂部には稲荷社が祀られ、南側にむけて参道が、墳丘を若干削りこむ状態でのびている。また東側には、墳裾に造り出し状の盛り上がりが見られる。その上に東側から通ずる旧参道の痕跡が残っている。墳丘の西側は、墳裾ギリギリのところまで、新江川の河川改修工事で削られ、断崖状となっている。また墳丘の東側も比高差5～6mの崖となっており、崖下には民家がある。

調査の概要 調査は墳丘から周囲の平坦地にかけるかたちで北側、東側、南側の3か所にトレンチを設定し、古墳の形状と規模を確認することに努めた。墳丘南側の第1トレンチは幅1.5m、長さ11.5mで、墳裾から4mほど離れて周堀が検出された。周堀は上幅3.5m、下幅2.3m、ローム面からの深さは0.8mである。墳丘北側の第2トレンチは、幅1.5m、長さ10.5mで、墳裾から2.3m離れて周堀が検出された。周堀は上幅5m、下幅3.5m、ローム面からの深さは0.9mである。墳丘東側の第3トレンチは、造り出し状のふくらみを調査する目的で設定した。幅1m、長さ3.5mである。ここでは、くびれ部が明瞭に検出された。

根岸稲荷神社古墳は調査の結果、小型の前方後方墳と推定でき、後方部は20×20m程度の規模である。前方部先端は不明であるが、くびれ部幅7m、長さ5m以上の規模となろう。周堀からの出土遺物には、吉ヶ谷式系の壺1と五領式の壺2・3とがあり、1・3は焼成後に底部穿孔されている。

(若松)

#### (5) 天神山横穴墓群

所在地 比企郡滑川町大字福田字中在家3218-3ほか

立地 天神山横穴墓群は荒川大橋の南方約2kmの熊谷東松山有料道路沿いに位置し、谷田を臨む低位丘陵の南西斜面に分布している。丘陵麓の標高は52mで、最高所の標高は68.9mである。

現況 調査時での開口横穴は1基で、玄室の規模が大きく、棺台が設けられている。これを1号横穴墓と呼称することにした。1号横穴墓の南東側は比較的丘陵の傾斜がゆるやかで、表面が土壌に覆われているが、北西側は急で、砂質泥岩の基盤層の露出する部分も認められた。

調査の概要 当初、新規の横穴墓を発見すべく、1号横穴墓の南東傾斜面の中腹に幅2m、長さ15mのトレンチを設定したが砂質泥岩の基盤層の検出にとどまり、横穴は発見されなかった。このため、かつて開口していたが、戦後埋めもどした横穴があるとの地元の人々の情報から、1号横穴の北西約16mの丘陵麓部の調査を実施した。その結果、比較的小規模な横穴墓が1基検出され、これを2号横穴墓と呼んだ。玄室の平面形は胴張り長方形で、幅1.64m、長さ1.98mで、天井部はカマボコ形に作られていた。玄門部には閉塞石をはめ込んだと推定される溝が切られていた。羨道部の平面形は、いったんくびれてから開く形態をとり、最も狭まった部分の幅0.86m、長さ1mである。玄室の中

央部から羨道部の中軸線上には水抜き溝が掘られ、玄室と羨道の床面も外側に向けて傾斜をもたせる配慮がみられた。1号横穴は、玄室内に土砂が再推積していたため、清掃し、実測図を作成することとし、羨道部発掘調査を実施した。玄室の平面形は胴張り方形で、幅2.44m、長さ2.44mを測り、玄門側の壁面は内彎している。玄室の左側壁に接して、掘り残した棺台が設けられていた。玄室の天井部は2号横穴墓と異なり、アーチ形で、中央部が最も高く、1.56mある。羨道部は下端幅0.44mと狭く、中心に排水路が掘られている。羨道部の前方には、南側に屈曲して墓道が設けられており、両者の境界には閉塞石がわずかに残っていた。3号横穴は、2号横穴の北西10mの地点で閉塞された状態が確認できたが、今後の保存を考えて、これ以上の調査をひかえることとした。1・2号横穴墓は盗掘されていたため玄室内の遺物は皆無であったが、1号横穴墓の閉塞石付近から須恵器大甕の小片が1点検出された。

(若松)

#### (6) 山の根古墳

所在地 比企郡吉見町大字久米田五の耕地746ほか

立地 山の根古墳は吉見丘陵から派生する尾根上にあり、尾根の先端に前方部を向けて築かれている。山の根古墳の北西35mには一辺25mの方墳がある。

現況 保存状態が良好で、前方後方形の墳形をよくとどめている。谷側にあたる後方部東墳丘部は自然の傾斜面を削り出しているほか、前方部も尾根先端の地形を利用している。

調査の概要 後方部の周囲に4か所、くびれ部に1か所、前方部に2か所のトレンチを設け、墳丘及び周堀の確認を行った。その結果、谷と反対側の平坦面にも周堀はなく、墳丘の盛土を得るために白色粘土層まで削り出した地山整形面であることが明らかとなった。西側のくびれ部に設けた第7トレンチでは、後方部の墳丘裾ラインが直線的に検出され、これに沿ってテラス状の平坦面があった。この部分から墳丘外の地山面にかけて、かなりの遺物が検出された。主なものに高坏、壺の下半部、台付甕などがある。

調査は不十分であるが現段階での規模は、主軸長54.8m、後方部長33.6m、同幅26.2m、前方部長21.2m、同幅19.2mである。墳丘の高さは傾斜面に築造されているため基底部から計ると、後方部は3m、前方部は1.9mとなる。古墳の築造年代は、くびれ部から出土した高坏が、深い坏部と、6個の円孔をもつ大きく開く脚部などから、五領式の中でも新しくならず、4世紀代が考えられる。

(若松)

## 2 平成2年度試掘・測量調査について

平成2年度の調査は、規模が大きいが内容の不明な、狐塚古墳、牧林古墳、長沖157号墳、白岩銚子塚古墳、秩父郡市で唯一、埴輪をもつとされる天神塚古墳を対象とした。試掘・測量調査は、平板測量による墳形、規模の確認と、数本のトレンチによる遺構、遺物の検出を行った。

### (1) 狐塚古墳

所在地 秩父市大字影森字下原

立地 荒川右岸の河岸段丘の古墳で、河岸からは約100m奥まっている。標高242mで、周囲には平坦地が広がる。荒川沿いの秩父の谷筋では最も西端の古墳だが、周囲に古墳は存在しない。しかし、周囲で土器片や石斧等が拾えるものの古墳時代に関わる遺物はまったく採集されておらず、詳

細は不明とされていた。

現況 墳丘の周囲にも宅地化が及び西から東側の墳丘裾まで宅地となっている。墳丘頂部に稲荷社が祀られ、若干削平されているが、保存状態は良い。最も崩れが大きいのは南東隅から東辺で、動物の巣やむろが掘られていた。北東隅、南西隅には本来の形がうかがえた。各辺とも直線ぎみであり、一辺が24mの方形の墳丘と思われる。墳丘の傾斜は下半が急傾斜、上半がやや緩やかになるが、通常古墳に比べれば、傾斜がきついといえよう。

調査の概要 調査は東辺に直交して2本のトレンチ、南辺に1本のトレンチを設けて進めたが、いずれのトレンチからも周堀は検出されなかった。そこで、第1トレンチを墳丘よりに延長して調査を進めたところ、現墳丘の裾から若干入った位置に0.5mほどの高さで乱雑に積み上げられた石積み遺構がみられた。石積みは旧地表と思われる部分からであった。この部分は稲荷社の参道にあたり、崩れも著しいことから補強のために築かれた可能性もある。(谷井)

## (2) 天神塚古墳

所在地 秩父郡皆野町大字金崎字岩下

立地 天神塚古墳は親鼻橋のたもとから国神方面にぬける県道沿いにあり、隣接して金崎神社が鎮座する。地形的には、荒川の左岸、宝登山の南西方向に延びる山地下に開けた河岸段丘に位置している。

現況 墳麓は三方を宅地や畑で削られ、四角形に変形しており、周囲には石垣が組まれていた。墳頂部には大東亜戦争忠魂碑と書かれた石碑が建てられているが、直径のわりに低墳丘であり、土採りされている可能性がある。主体部は結晶片岩を用いた短冊形の横穴式石室で、南西に開口している。天神塚古墳の北東300mの地点には、やはり横穴式石室の開口する大塚3号墳がある。これらは秩父地方の代表的古墳群として、天神塚古墳を含めて4基が県指定史跡となっている。

調査の概要 墳丘の周囲に3本のトレンチを設け、墳形と周堀の有無の確認に努めた。周堀は保存状態が悪かったが、主に土層断面を細かく検討すると、下端が幅2m前後で巡ることが明らかになった。墳形は円墳とみられ、復原直径は15.6mとなる。墳丘は土によって築成されているが、10～30cm程度の大きさの片岩を大量に含んでいた。また、墳丘東側に設けた第2トレンチでは墳丘裾部の保存状態が良く、片岩を用いた貼り石が残っていた。出土遺物には円筒埴輪片と人物埴輪の腕の破片があるが、原位置での出土はなかった。天神塚古墳の築造年代は大塚3号墳などの胴張式に先行する短冊形の石室形態と円筒埴輪の特徴から、6世紀後半と推定される。現在のところ、秩父郡下で埴輪をもつことが確かな唯一の古墳である。(若松)

## (3) 牧林古墳

所在地 吉田町大字下吉田字小暮3307

立地 赤平川左岸の河川段丘上にあり、赤平川の支流、土橋沢右岸にあり、古墳は段丘崖に面している。下吉田地内は、この古墳の北西に芦田古墳群、北東に取方古墳群があるが、当古墳はこれらの古墳群とは離れて存在しており、近くは、南西100mに、行人塚古墳があるのみである。ただ古墳に係る遺物はなく、詳細は不明であった。

現況 墳丘の周囲は、上水を利用した水田と、桑畑となっている。また、墳丘上はかつて雑木林

であったが、調査時伐採されていた。墳丘の頂上部には、かつて浅間社が祀られていた。墳頂南西部には参道上の窪みがみられた。裾部は畑地として利用されたため、方形状を呈していた。

**調査の概要** 調査は西辺、北辺、北東隅に3本のトレンチを設定して行ったが、周堀は検出できず、墳裾と、粘土層まで削られた平坦面が確認された。墳丘は粘土と茶褐色土で互層に版築されていた。規模は墳裾で長径約28m程をもつと思われる。また、表面上の精査では、遺物、主体部等に関する手がかりは得られなかった。(大和)

#### (4) 長沖157号墳

**所在地** 児玉郡児玉町大字長沖字金屋885-1

**立地** 長沖古墳群は児玉丘陵の北側、身馴川の左岸の台地沿いに分布している。身馴川沿いの南北500m、東西1500mの範囲に157基の古墳が密集している。157号墳は古墳の密集した台地とは浅い谷を隔てた奥の台地にある。古墳は舌状台地の先端近くの馬の背部分の標高約120mのところ築かれていた。

**現況** 墳丘東側の裾近くまで宅地造成による削平が行われているが、墳丘部分はほぼ残っていた。墳頂部はかつて稲荷社があったためか、平坦であるが、本来の墳頂を均した程度であろう。測量図に示すように、墳丘全体ではほぼ原形を残し、西側及び南側の墳丘裾では周堀の跡と思われる窪みも見られた。南側墳丘下半部が平坦化され、等高線が乱れているが、稲荷社に登る参道のため変形されたものである。

**調査の概況** 調査は墳丘の南の窪みに第1トレンチ、西の窪みに第2トレンチを設けて進めた。幅2m、長さ9.6mの第1トレンチでは原墳丘裾からはじまる幅6mの周堀が検出された。長さ10mの第2トレンチでは墳丘よりでは傾斜の緩い平坦面に続いて幅7mの周堀が検出された。第1トレンチに比べ、やや幅広く、深かった。墳丘よりで見つかった平坦面が全体にめぐっている可能性がある。墳丘南西側は平坦化され等高線が乱れていたため、張り出し部の有無を確認するため、第3トレンチを入れた。調査結果では、東よりの部分がブリッジ状にやや高い堀底が確認され、円墳の可能性が高くなった。墳丘の規模は測量図や2本のトレンチの調査結果から直径約32mと推定される。

出土遺物は、第2トレンチを中心に、黒斑のある横ハケの施された埴輪が検出された。長沖古墳群ではいくつかの古墳で発見されており、築造年代は5世紀前半を中心とした年代が考えられよう。

(谷井)

#### (5) 白岩銚子塚古墳

**所在地** 児玉郡神川町大字新里字白岩

**立地** 銚子塚古墳は児玉丘陵の一部を形成する標高133mの白岩丘陵上にある前方後円墳で、丘陵頂部付近の鞍部に占地している。周囲には4基の小型円墳が散存しており、白岩古墳群と総称されている。

**現況** 墳丘上は山林となっており、保存は比較的良好であるが、後円部の南西側に大規模な盗掘墳があり、前方部墳頂付近にも椎茸栽培用の穴がある。盗掘墳の付近には、石室の用材とみられる大きな礫が転がっていた。墳丘の周囲には、周堀の痕跡が部分的に残り、特に前方部の北西側と後円部の南西側に顕著にみられる。

調査の概況 墳丘の周囲に5本のトレンチを設け、墳丘裾部と周堀の検出に努めた。後円部の北側に設定した第1トレンチでは、旧表土層とローム地山層を掘削した墳丘裾部が検出された。周堀は上端幅2.7m、深さ0.3mで、覆土中から埴輪片とともに、墳丘から転落した葦石が出土した。周堀の1.5m外側には幅4m程の堀があり、外堀の可能性がある。墳丘北東側のくびれ部に設定した第2トレンチでは、墳丘裾部は削平されていたが、周堀の外側の立ち上がり部も検出されなかった。地山面が外側に傾斜することから、この部分には周堀のなかった可能性がある。前方部先端から外側に向けて設定した第3トレンチでは、墳丘裾部は墳麓の外側2.5mの位置で検出された。周堀の規模は広く、上端幅8.2m、深さ0.6mである。覆土中には円筒埴輪片のほかに、平安時代の遺物を含んでいた。墳丘南西側のくびれ部に設定した第4トレンチでは、良く叩きしめられた墳丘盛土が確認された。その外側は緩傾斜面をへた後、わずかに掘くぼめられており、周堀と推定された。このことから、くびれ部には幅2m程度のテラスが設けられていたとみられる。墳丘の規模を、今回の測量調査とトレンチ調査の結果から総合して勘案すると、主軸長46m、後円部径28m前後で、従来の数値を改める必要はなさそうであるが、前方部幅については、隅角部の遺存が悪く、明確にしえなかった。立面的には、前方部が後円部に比較して極端に低く、約2.3mの比高差のあることが問題となろう。しかし、後円部の墳頂部の平面形が四角く、盛土等で本来の墳丘に改変が加えられているとみられるので、この差は少し縮まる可能性がある。出土遺物には、円筒埴輪片、馬や器財などの形象埴輪片、須恵器甕片などがある。円筒埴輪片の特徴から、築造年代が6世紀であることは動かないが、詳細については墳形や遺物の検討をへた上で明らかにしたい。(若松)

### 3 平成3年度試掘・測量調査について

平成3年度の調査は、従来、良く知られているが、その実態が不明な目沼10号墳、巨大な石室で知られるが、終末期古墳として、墳形が今一つ良くわからない上、周辺に開発が及んでいる八幡山古墳、そして墳形が不詳であった川里村舟塚古墳を対象とした。

#### (1) 目沼10号墳

所在地 北葛飾郡杉戸町目沼字浅間398

立地 目沼古墳群は江戸川を東に望む、宝珠花台地上の東西300m、南北500mほどの範囲にあり、昭和41年に町教育委員会で調査を行い、鈴杏葉が出土した9号墳や、8号墳とは小支谷を隔て台地端部にある。

現況 もとは墳頂部に浅間社が祀られており、その為の盛り土と思われる2m程の急に高くなっている部分がある。また、周囲は土取によってかなり変形しているようである。直径28m程の、南北にやや長い円墳状を呈している。保存状態は良い。

調査の概要 試掘・測量調査の結果、後円部径30.4m、高さ5m(推定)程、前方部を含む全長は46mを越える前方後円墳と確認された。

試掘調査は、敷地の中で周堀の確認が可能と思われる、南北の対角線方向に第1・第2トレンチを設定した。

墳丘南側の第1トレンチでは、幅4.8m、深さ1.2mの周堀を検出した。埴輪は2条の突帯をもつ円筒埴輪と朝顔形埴輪が覆土中から出土しており、古墳の年代は6世紀前半から中葉と推定される。

墳丘北側の第2トレンチでは、幅5m、深さ1.1mの周堀を検出し、覆土中からは、多量の円筒埴輪片があたかも投げ込まれたかのような状態で重なって出土した。

第3トレンチは、墳丘が南西に向かって張り出した部分に設定したが、周堀はさらに外側に延びており、前方部は予想よりかなり大きいことが推定された。埴輪は、第1・第2トレンチとほぼ同様に、墳丘から周堀へ転落したような状態で出土した。

第1・第2・第3トレンチの状況と地形から推定すると、前方部は敷地外へ延びるようであり前方後円形をさらに確定するため、第4トレンチは括れ部の存在が推定された第1トレンチの北に隣接した部分に設定した。

第4トレンチでは、括れ部と、周堀の外側の立ち上がりを検出した事から、周堀は相似形に回るものと推定される。また、括れ部に近い、覆土中に掘り込まれた土壌から、円筒埴輪棺が出土した。

(大和)

## (2) 八幡山古墳

所在地 行田市藤原町2丁目27-2

立地 若小玉古墳群は、行田市の市街地の東方、南に埼玉古墳群を望む埋没ローム台地上にあり、かつては8基の古墳によって構成されていた。

現況 八幡山古墳は昭和10年頃に土取の為、石室が露呈し、昭和52年から54年にかけて県教育委員会により、石室の復原が行われた。その際に、周堀部分の一部にトレンチによる確認調査が実施されている。現在は工業団地の中にあり、石室と墳丘の一部が整備されて公園となっている。

調査の概要 試掘調査の結果、直径約80mの円墳と確認された。調査は、前回の確認調査を補足する意味で、主体部の南西部から南東部へかけての公園の敷地内に4本のトレンチを設定して行った。

最も西よりの第1トレンチでは、良好なローム土と黒色土による版築と周堀を検出した。また、墳裾から10m程外へ延びた部分でも、外側の立ち上がりは検出されなかった。

前庭部方向の墳裾部分に設定した第2・第3トレンチでは、第1トレンチとほぼ同様のローム土、黒色土による版築と周堀を検出し、若干の須恵器片や石屑等が出土した。

最も東よりの第4トレンチは、植え込みとコンクリート製の溝による墳裾表示を避けて、墳裾から15m程外に向かって設定したが、周堀の外側の立ち上がりは検出できなかった。(大和)

## (3) 舟塚古墳

所在地 北埼玉郡川里村屈巢字舟塚

立地 鴻巣市との境を流れる元荒川の左岸、140m程の、微高地上に立地し、周囲1km程は、低いローム台地で、南500mの所には、鴻巣市安養寺古墳群があり、この地点も、縄文晩期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓等の複合遺跡である事がわかった。

現況 周囲は全て畑地となっている。周辺は、南東から北西に延びる低い台地で、東側は土取りにより1m程削平されており、この古墳も一部を破壊されていることが予想された。また、この低い台地は、篠山となっている地点が最も高く、16.8mである。そして、この地点だけから、形象埴輪片が採集された。

調査の概要 調査は、埴輪片の集中している畑の後方の若干高い、篠山部分を中心として、南東方



向に第1トレンチ、これと直交する南西方向に第2トレンチ、そして北西方向に第3トレンチを設定して進めた。第1トレンチでは、2カ所で、堀状の落ち込みを確認し、南へ延びていた為、この掘の限界を追う為、さらに南に拡張区を設定したが、掘はここまでは延びていなかった。この古墳(跡)に伴うと思われる周堀は、第2トレンチ、第3トレンチで確認された。第2トレンチでは上端で幅3.2m、深さ0.6m、北側の第3トレンチでは幅2m、深さ0.7mと幅が狭くなっている。さらにサブトレンチとして、第2～3トレンチ間に第4トレンチ、第1～2トレンチ間に第5・第6トレンチを設定して調査を進めた。この結果、第4トレンチで古墳の周堀を確認し、覆土中から土師器杯が出土した。以上の周堀の検出状況から、古墳(跡)の規模は、墳裾で直径19～20m程の円墳と確認された。また、時期は6世紀～7世紀初頭と思われる。さらに、第2トレンチ、第4トレンチでは、古墳時代前期の土師器壺が出土している。特に、第4トレンチ出土の壺はほぼ完形で、底部穿孔されており、方形周溝墓に伴う溝と推定され、第2・第4トレンチは各々別の溝と考えられる事から、2基の方形周溝墓の存在が推定できる。又、第1トレンチ、第5トレンチで検出された堀は、土層の観察から、近世のものと思われ、地元の方の話による、ゴボウイン(御坊院か?)と呼ばれる草堂に伴うものと推定される。(大和)

平成元年度 古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧(入間・比企郡市)

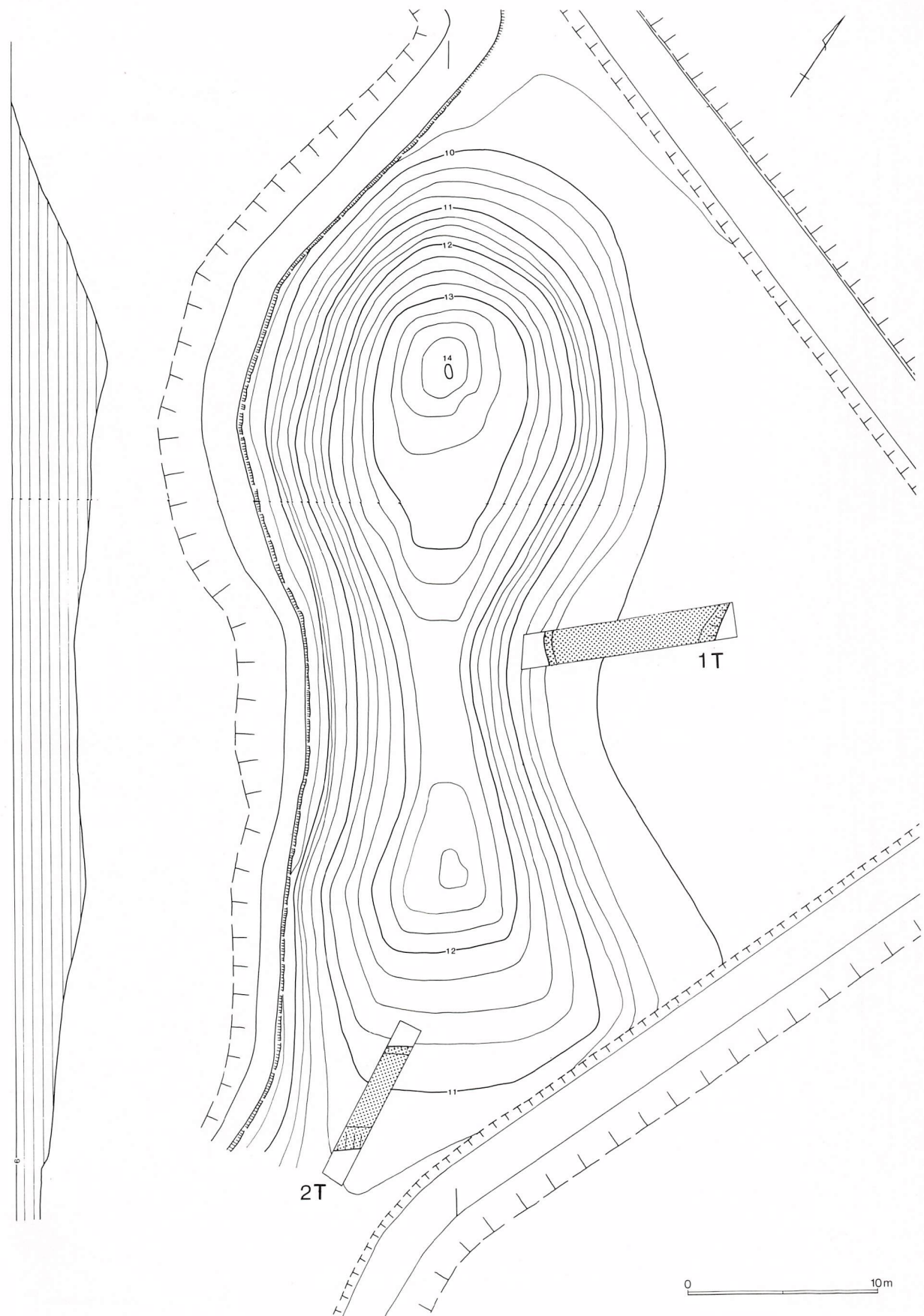
郡	市町村	主要古墳(群)名	試掘・測量調査
入間郡	川越市	下小坂古墳群、どうまん塚古墳、牛塚古墳、南大塚古墳群、三王塚古墳、仙波古墳群、慈眼堂古墳、三変稲荷神社古墳、岸町横穴群	
	所沢市	滝之城横穴墓群、北秋津横穴墓群	
	狭山市	上広瀬古墳群、笹井古墳群、稲荷山公園古墳群	
	富士見市	貝塚山遺跡	
	上福岡市	川崎横穴墓群	
	坂戸市	中小坂古墳群、雷電塚古墳、勝呂古墳群、胴山古墳、善能寺古墳群、北峰古墳群、山王塚古墳、成願寺古墳群	雷電塚古墳
	毛呂山町	大類古墳群、川角古墳群、西戸古墳群	大類2号墳
	越生町	谷ツ古墳群、入古墳群	
	日高町	藤塚古墳	
	鶴ヶ島町	鶴ヶ丘稲荷神社古墳	
比企郡市	東松山市	諏訪山古墳群、毛塚古墳群、高坂古墳群、古凍古墳群、亀塚古墳、天神山古墳、柏崎古墳群、おくま山古墳、野本將軍塚古墳、附川古墳群、下唐子古墳群、冑塚古墳、若宮八幡古墳、西原古墳群、鴻の面古墳群、三千塚古墳群、雷電山古墳、弁天塚古墳、秋葉塚古墳、長塚古墳、根岸稲荷神社古墳、岩鼻古墳群	天神山古墳根岸稲荷神社古墳
	小川町	新田古墳群、草加古墳群、西ヶ谷戸古墳群、行人塚古墳群、平松台古墳群、穴八幡古墳	
	嵐山町	栗津ヶ原古墳群、古里古墳群、岩根沢横穴墓群、屋田古墳群、天神山古墳群、稲荷塚古墳、山王古墳群	
	川島町	白山古墳、東大塚古墳	
	吉見町	吉見百穴、久米田古墳群、山の根古墳群、黒岩横穴墓群	山の根古墳
	鳩山町	十郎横穴墓群	
	滑川町	月輪古墳群、天神山横穴墓群、円正寺古墳群、天神前古墳群、菖蒲沼古墳群、ゴエモン塚古墳群、後谷古墳群、中山古墳群、西山古墳群、糟沢古墳群、栗谷古墳群、矢崎古墳群、馬場古墳群、東両表古墳群、大谷古墳群	天神山横穴墓群

平成2年度 古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（秩父・児玉郡市）

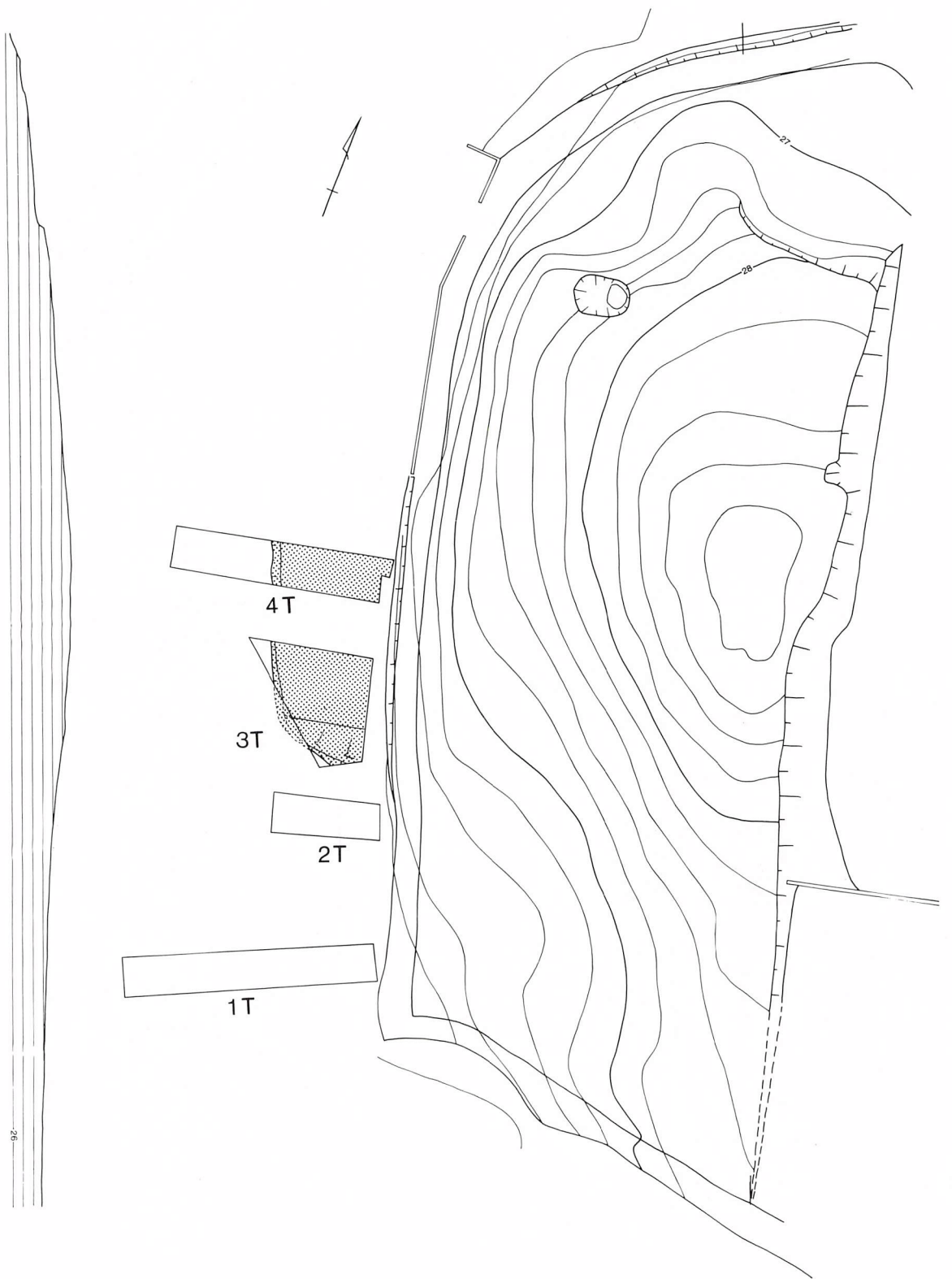
郡	市町村	主 要 古 墳 (群) 名	試掘・測量調査
秩父郡市	秩父市	飯塚招木古墳群、大野原古墳群、金室古墳群、大塚古墳、狐塚古墳、氷雨塚古墳	狐塚古墳
	吉田町	取方古墳群、芦田古墳群、太田部古墳群、牧林古墳	牧林古墳
	小鹿野町	山の神古墳、姥塚古墳、氷雨塚古墳、丸山塚古墳	
	長瀬町	上長瀬古墳群、愛宕塚古墳、浅間山古墳	
	皆野町	金崎古墳群、大塚1～3号墳、天神塚古墳、内手古墳群、中之芝古墳群、円墳大塚古墳、大洲古墳	天神塚古墳
	荒川村	正将塚古墳	
児玉郡市	本庄市	西五十子古墳群、大久保山古墳群、公卿塚古墳、旭・小島古墳群、三壘山古墳	
	児玉町	長沖古墳群、十兵衛塚古墳、秋山古墳群、庚申塚古墳、諏訪山古墳、鷺山古墳、生野山古墳群	長沖157号墳
	上里町	浅間山古墳、旭・小島古墳群、東堤古墳群、帯刀古墳群、大御堂古墳群	
	美里町	塚本山古墳群、普門寺古墳群、羽黒山古墳群、白石古墳群、広木大町古墳群、諏訪山古墳群、諏訪山古墳、長坂聖天塚古墳、川輪聖天塚古墳、生野山古墳群、生野山銚子塚古墳、生野山物見塚古墳、生野山将軍塚古墳、生野山16号墳	
	神川町	四軒在家古墳群、元阿保古墳群、稻荷神社古墳、関口古墳群、姫塚古墳、植竹古墳群、北塚原古墳群、南塚原古墳群、二の宮古墳群、城戸野古墳群、十二ヶ谷戸古墳群、海老ヶ久保古墳群、白岩古墳群、白岩銚子塚古墳、中新里諏訪山古墳	白岩銚子塚古墳

平成3年度 古墳詳細分布調査実施主要古墳一覧（北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市）

郡	市町村	主 要 古 墳 (群) 名	試掘・測量調査
北埼玉郡市	行田市	酒巻古墳群、斎条古墳群、小見古墳群（小見真観寺古墳）、若小玉古墳群（八幡山古墳、地藏塚古墳）、白山古墳、埼玉古墳群（丸墓山古墳、稻荷山古墳、将軍山古墳、二子山古墳、愛宕山古墳、瓦塚古墳、鉄砲山古墳、奥の山古墳、中の山古墳、戸場口山古墳、浅間塚古墳、神明山古墳）、小針鎧塚古墳、真名板高山古墳	八幡山古墳
	加須市	鶴ヶ塚古墳、樋遣川古墳群（御諸塚古墳、浅間塚古墳、稻荷塚古墳）、大越古墳群（稻荷塚古墳、八幡塚古墳、浅間塚古墳）	
	羽生市	新郷古墳群（前浅間塚古墳）、羽生古墳群（毘沙門山古墳、保呂羽堂古墳）今泉古墳群（熊野塚古墳）、尾崎古墳群（浅間塚古墳、遍照院古墳）、村君古墳群（永明寺古墳、御廟塚古墳）、小松古墳群（埋没古墳）	
	騎西町	小沼耕地遺跡	
	南河原村	とやま古墳（跡）	
	川里村	舟塚古墳（跡）	舟塚古墳(跡)
	春日部市	内牧塚内古墳群（13基中7基現存）	
南埼玉郡市	岩槻市	浄安寺境内古墳（跡）、塚の腰古墳	
	蓮田市	十三塚古墳群、佐々原古墳（滅）	
	菖蒲町	栢間（かやま）古墳群（天王山塚古墳、押出塚古墳、大日塚古墳、禿塚古墳夫婦塚古墳）、東浦古墳	
	宮代町	姫宮神社古墳群	
北葛飾郡市	杉戸町	目沼古墳群（20基中3基現存・3号墳・10号墳〔浅間塚〕・17号墳・他は削平又は消滅）、木野川古墳群（8基現存・No60～67号墳）	目沼10号墳
	庄和町	向之内古墳	

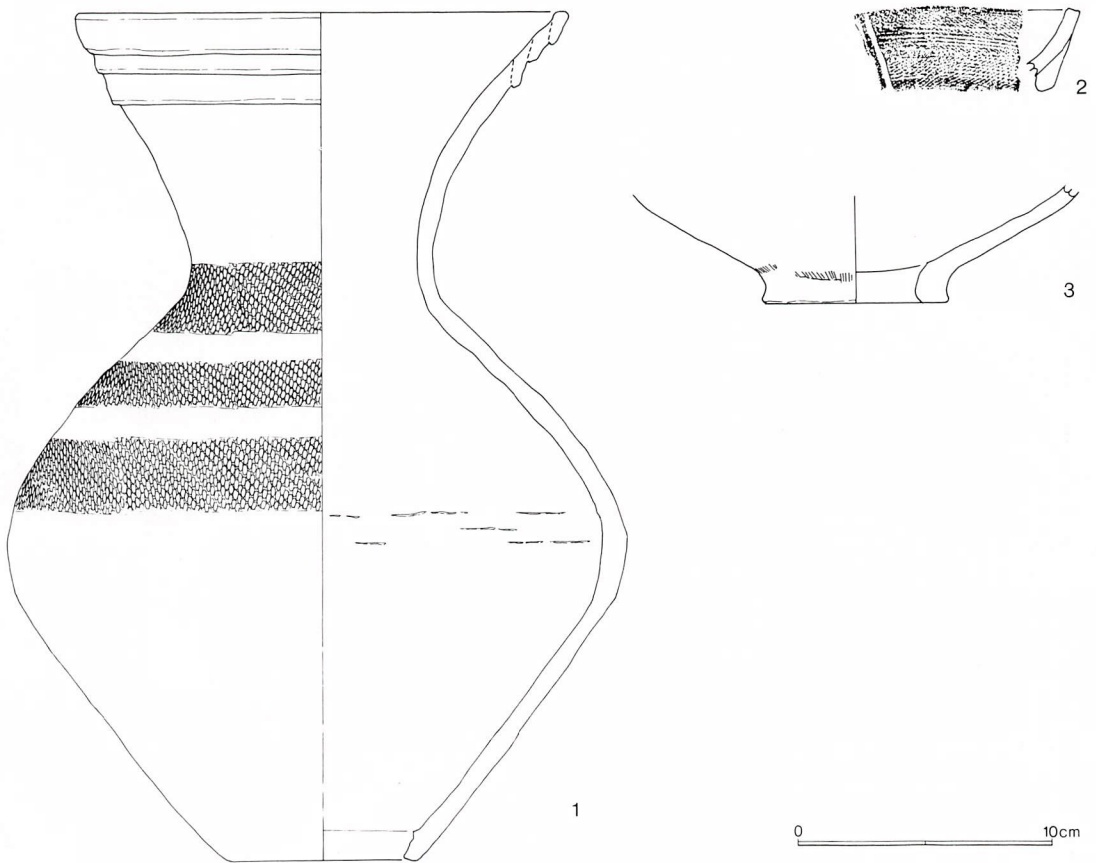
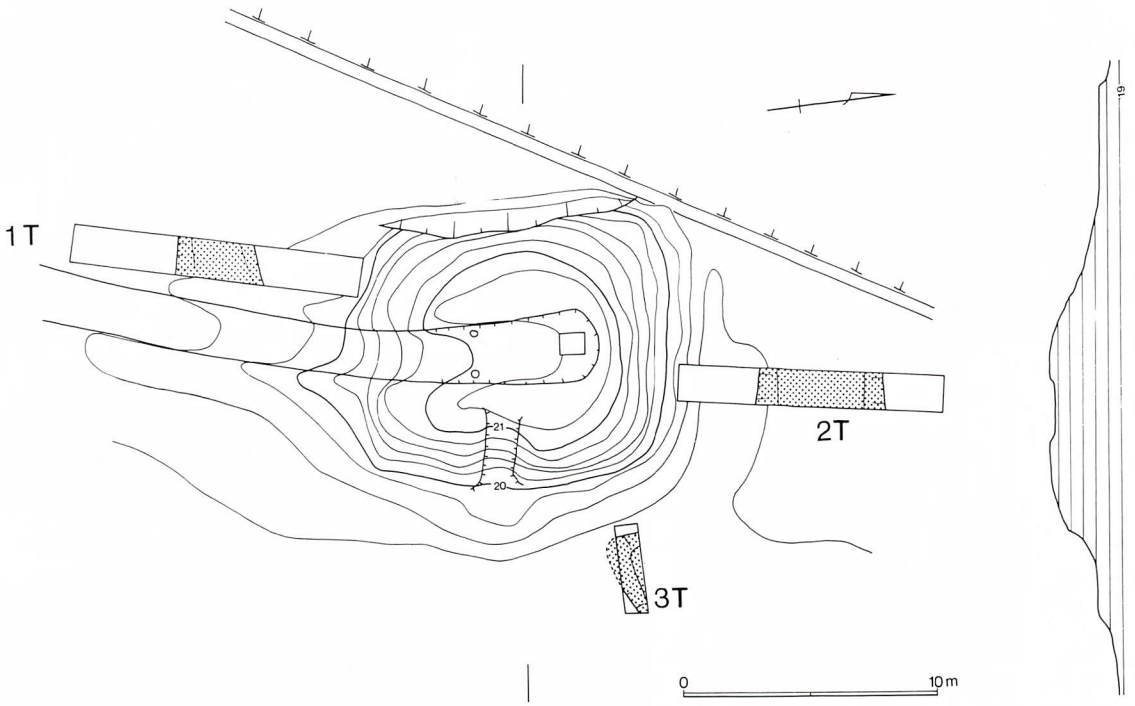


第 1 図 坂戸市雷電塚古墳測量図

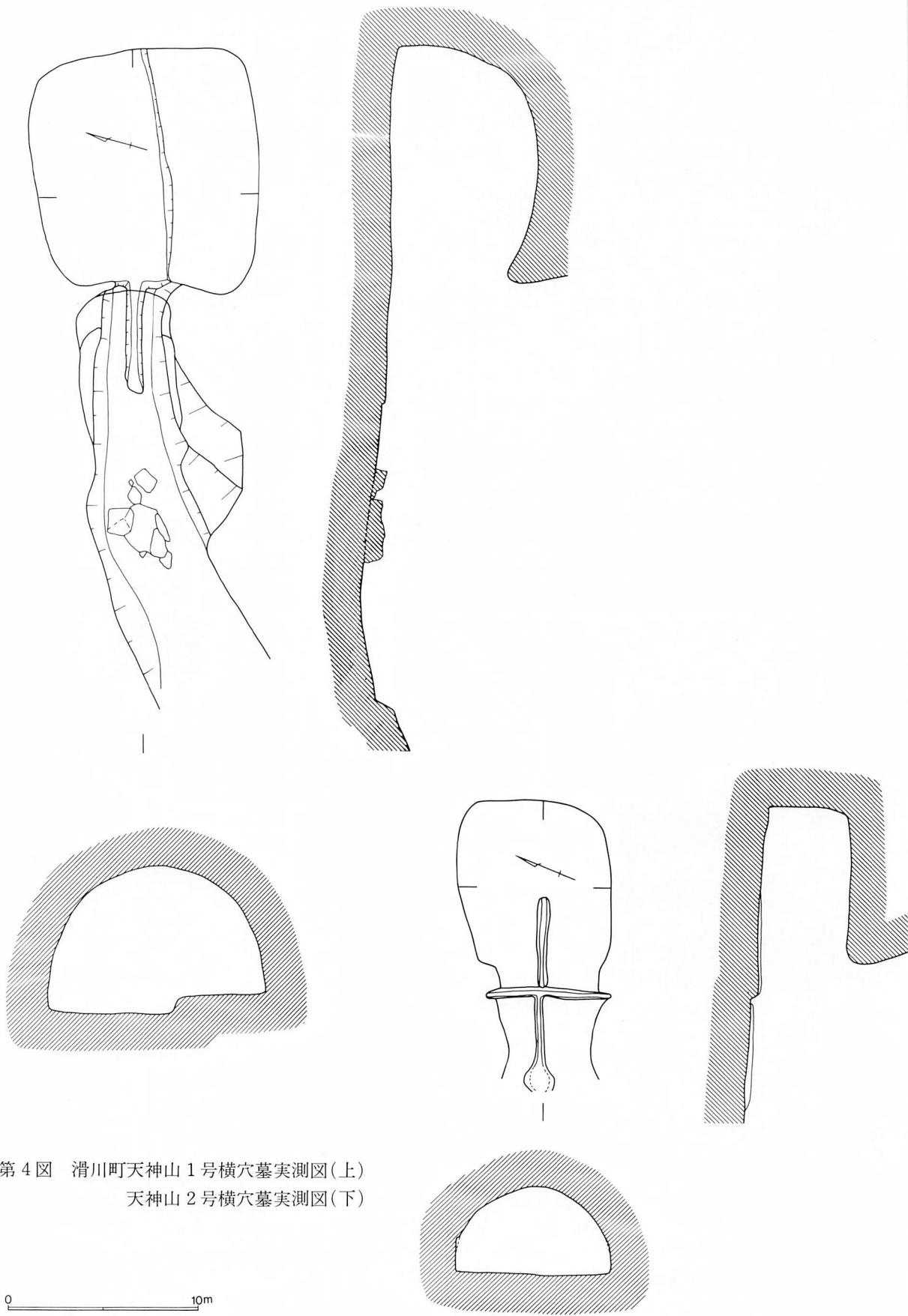


第2図 東松山市天神山古墳測量図

0 10m

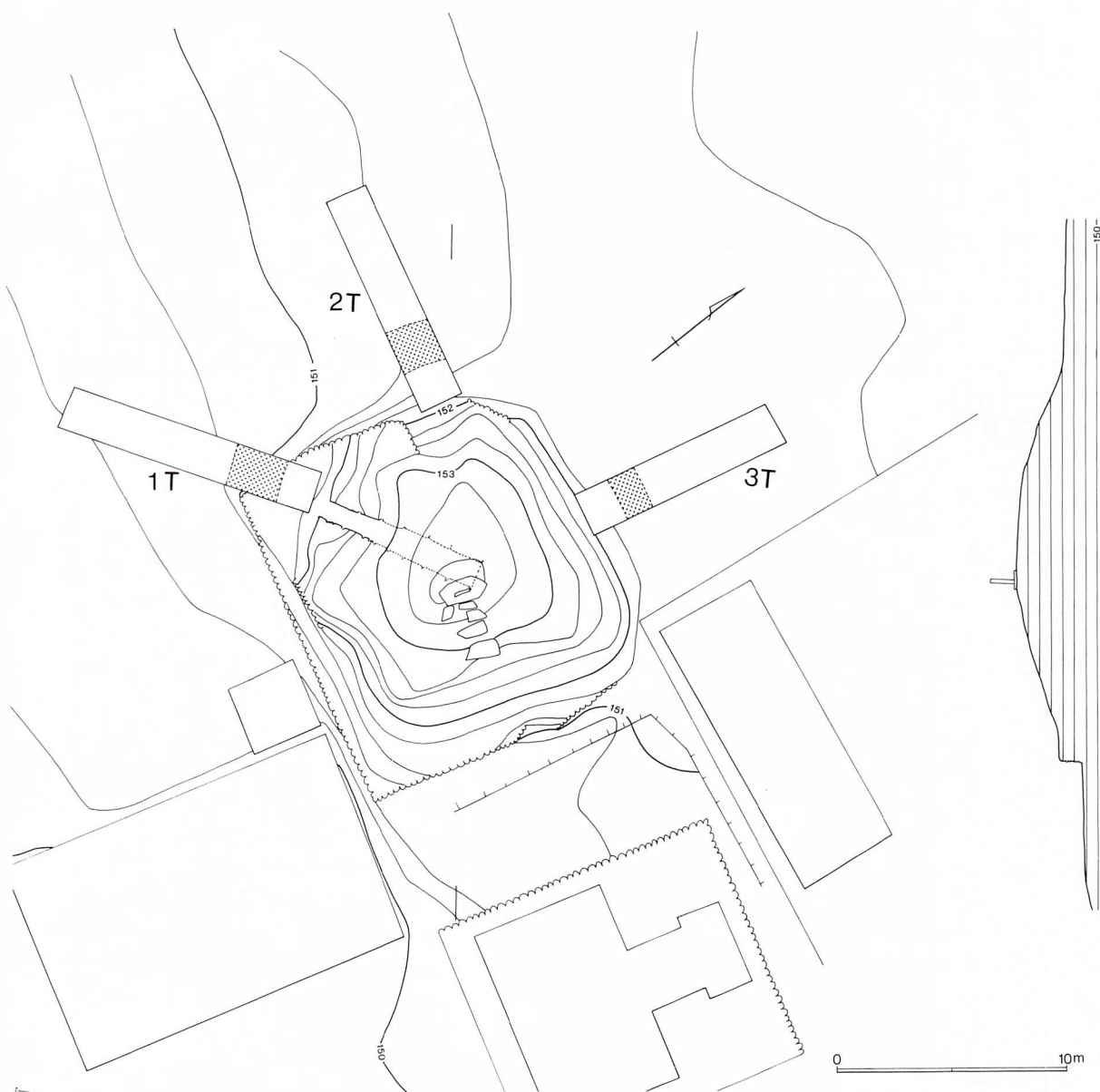


第3図 東松山市根岸稲荷神社古墳測量図及び出土土器実測図

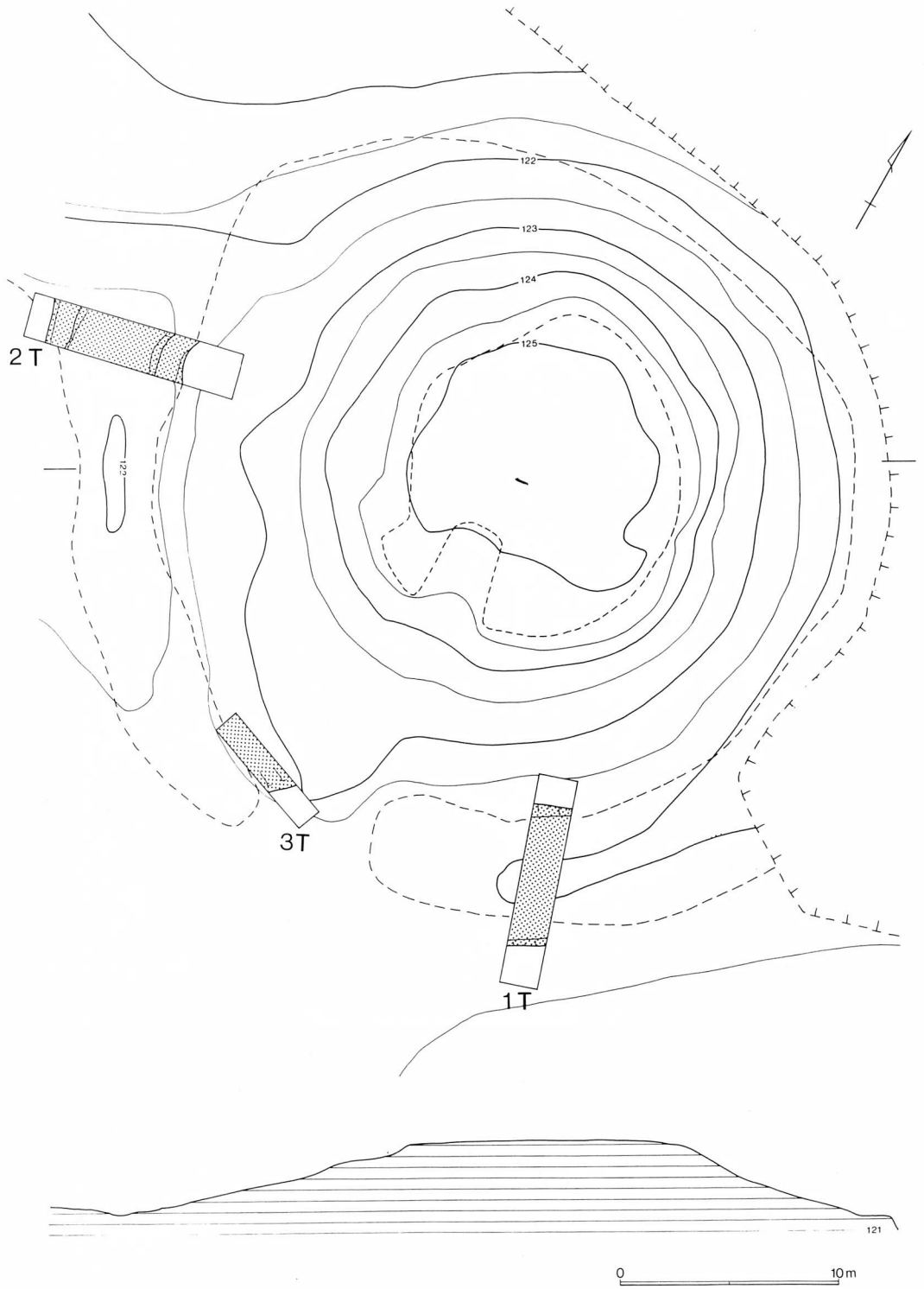


第4図 滑川町天神山1号横穴墓実測図(上)  
天神山2号横穴墓実測図(下)

0 10m

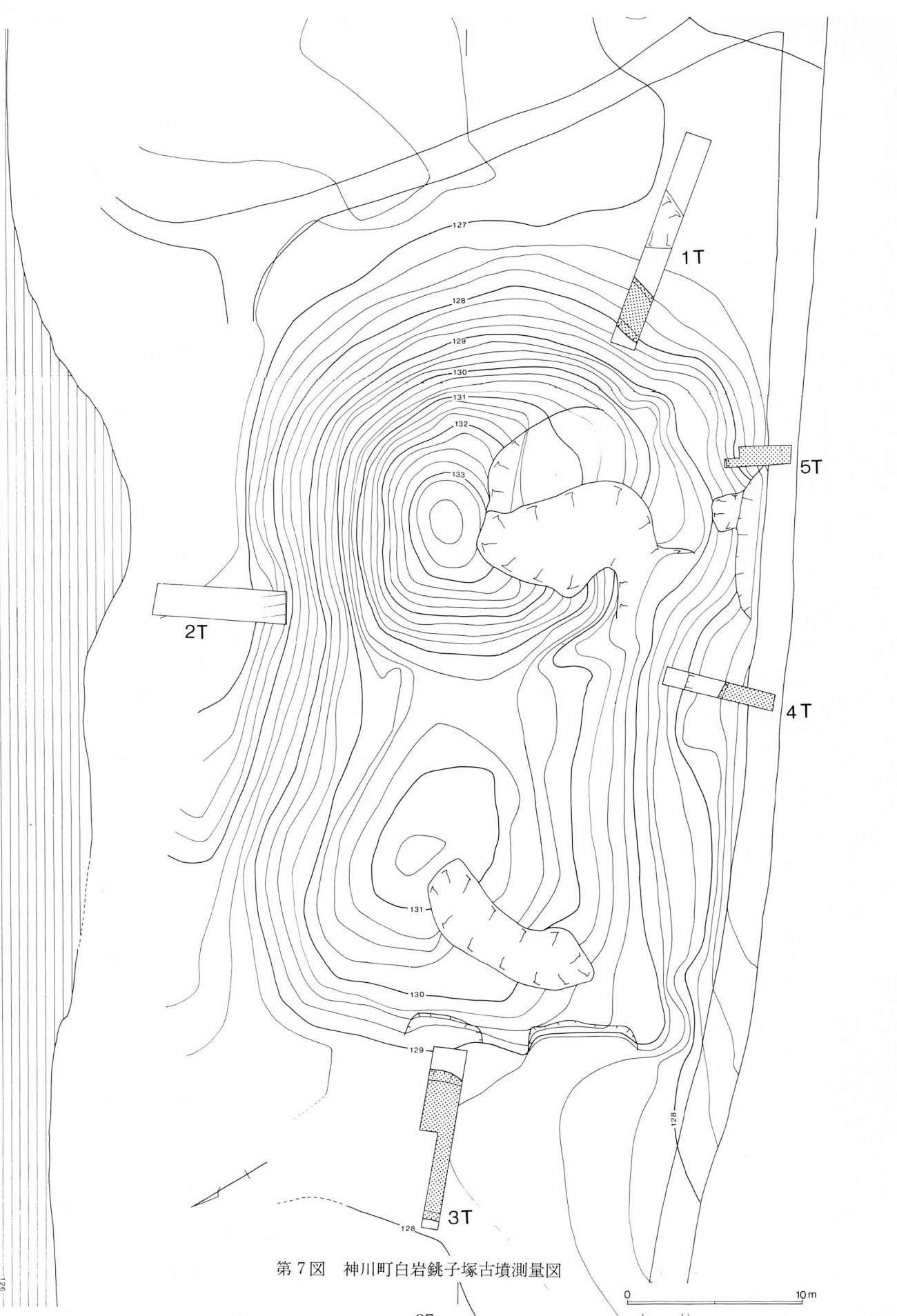


第 5 図 皆野町天神塚古墳測量図



第 6 図 児玉町長沖157号墳測量図

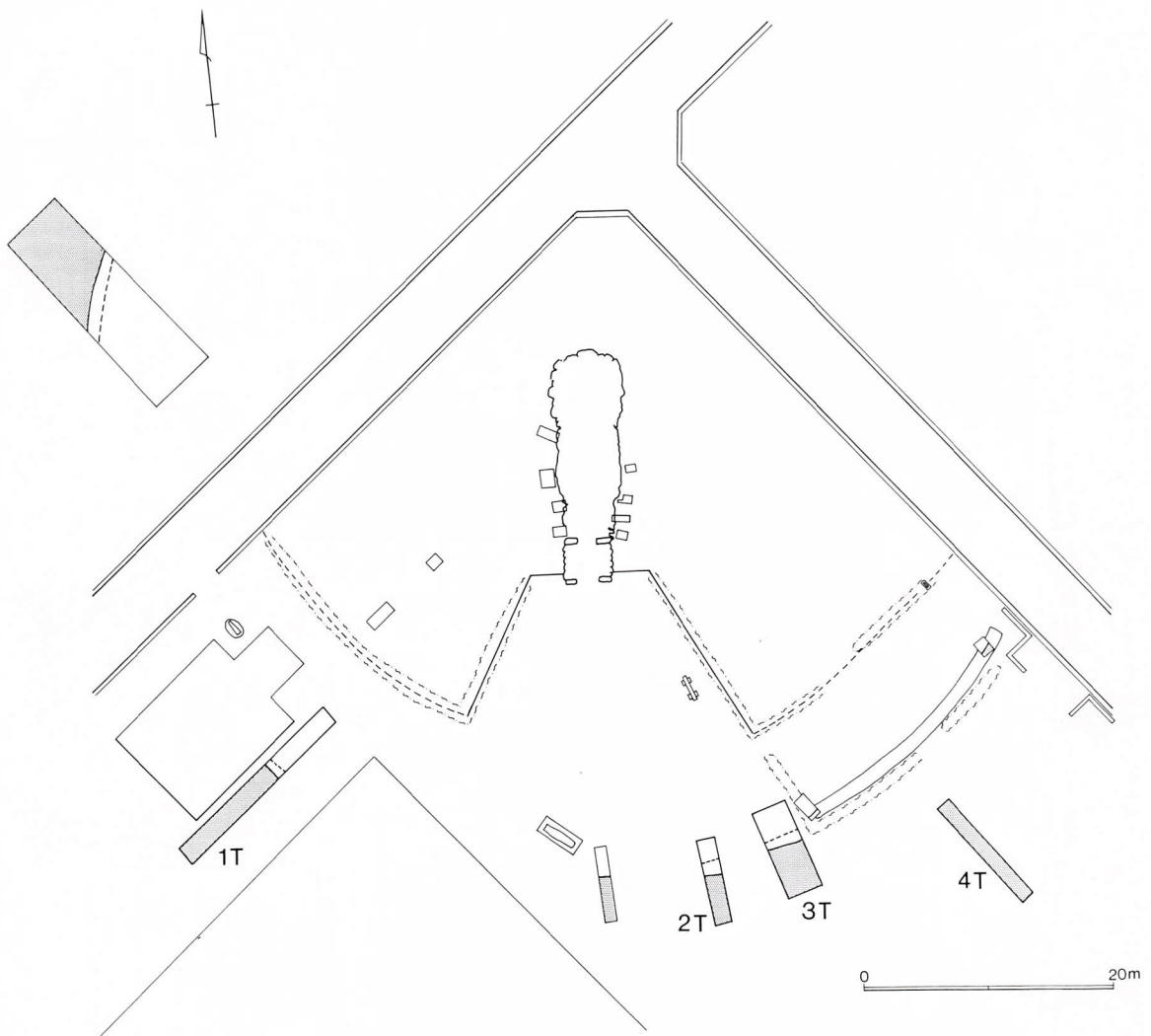




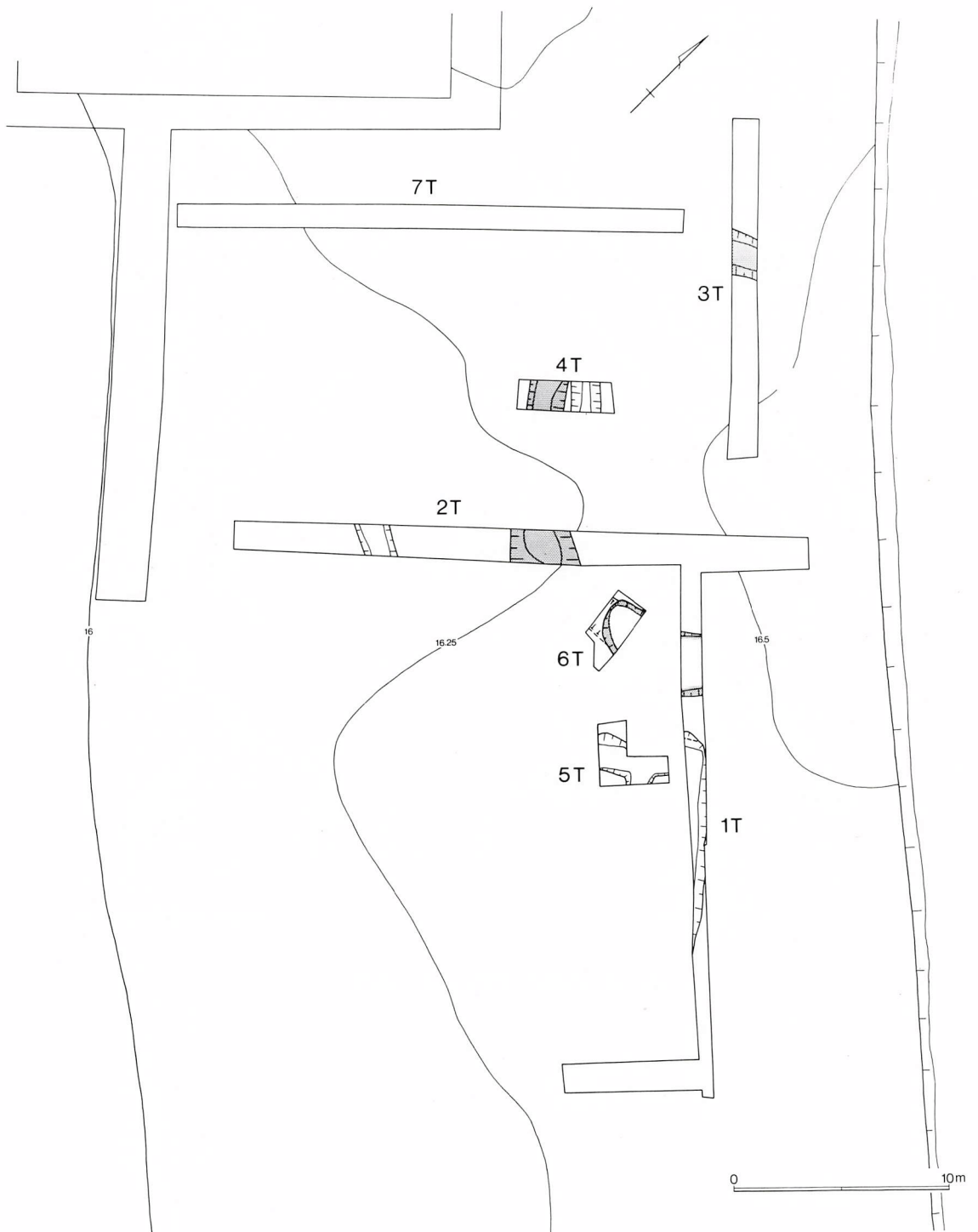
第 7 図 神川町白岩銚子塚古墳測量図



第 8 図 杉戸町目沼10号墳測量図



第9図 行田市八幡山古墳測量図



第10図 川里村舟塚古墳測量図